

「80年代を闘う全国労働者集会」が大成功!

日刊 動労千葉

80.3.4
No.366

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八一九(公衆電話)七二〇七

三里塚ニ反合闘争を軸に、新たな戦闘的全国潮流の形成へ前進

三月二日、千葉県文化会館において開催された「三里塚労働連帯・80春闘勝利・八〇年代を闘う全国労働者集会」は、動労千葉の各支部からの五〇名の参加をはじめ全国からの労組活動家五七二名という圧倒的な結集をもって、八〇年代を闘いぬく鮮明な指針を確立した。日本労働運動の右傾化・翼賛化の危機をのりこえて、八〇年代を勝ちぬくための新たな戦闘的・階級的な全国潮流を創造していく闘いが、ここにしっかりと第一歩を踏み出したのである。

三里塚・反合を実践的スローガンとして
―中野書記長基調提起―

集会は、十三時過ぎ、立錐の余地のない会場に割れんばかりの拍手と歓声が湧き起こる中で、動労千葉布施行委員の司会により進められた。冒頭、主催者を代表して、動労千葉関川委員長が、八〇年代を闘い抜く動労千葉の決意を明らかにした。

協賛として三里塚芝山連合空港反対同盟の石井武実行役員より、「三里塚の闘いは、戦争政策そのものを粉碎する闘いである」ことが力強く語り、満場の大きな拍手を受けた。

続いて、動労ジェット闘争支援共闘会議世話人である浅田光輝氏からの「動労千葉を中心として八〇年代労働運動の主軸となることを期待している」という連帯の挨拶が行なわれた。

基調報告にたった動労千葉中野書記長は、第一に、三里塚闘争を真正面から闘い抜く労働運動の質こそが、全ゆる闘いを勝利に導くものであること、第二に今日の経済的・組織的攻撃には含まれていない「労働運動つぶし」の性格をしっかりと見ぬき、既成指導部の破産と制動をのりこえ闘い抜くことの重要性。特に、企業防衛主義・排外主義との闘いの重要性。第三に、労働運動の戦闘的再生は、密集せる反動・反革命との激突の中から、これに勝利すること。第四に、右翼的「労戦統一」の策動と八〇年代労働運動の展望について、労働運動の流動化は現実の過程に入っており、その中で、確固たる方針のもと自前の労働運動の創造、三里塚・反合を実践的スローガンとして闘い抜く必要性。以上の四点にわたった基調提起が行われ

まさに八〇年代はその闘いの質・指導の内容・路線が問われていることを明らかにした。

三里塚・動労千葉との連帯のもと、労働者の原則をつらぬいてたち向う!

全国各産別・職場で戦闘的・原則的に闘っている仲間を代表して、次の六単組より特別報告がおこなわれた。

宮城の地において、真の労働運動確立をめざして結成をもちとつた八全金本山労組、沖繩において、はげしい差別と分断の攻撃と対決し、人民解放の闘いを続けている八沖繩軍労働者、代表より生き生きとした闘いの報告と決意をうけた。

このあと、全通、政労協、出版、電通などの各産別の代表より、八〇年代を共に闘うかたい決意表明が行われ、参加者は万雷の拍手でこれを確認した後、労働運動評論家である高島喜久男氏の挨拶が行われた。高島氏は、「本日の集会は北海道から沖繩まで、民間造船重機から、公労協国鉄まで、まさに、日本労働運動の全てを網羅する新しい潮流の原点だ。しかも、この「点」は、必ず勝利する「点」だ」と、感動をこめて報告され、参加者は改めて自らの闘いの歴史的重要性を確認したのであった。

最後に「集会アピール」が採択され、インター合唱、団結ガンパローをもって、本集会は成功裡のうちに終了していった。

全組合員のみなさん!
八〇年代を闘う方向性はすでに鮮明となった。新たな労働運動の戦闘的潮流の形成とその主軸となるべきわれわれの闘いと飛躍こそ、今日大きく問われている。日本労働運動の飛躍的前進をかけた、三里塚―反合理化の闘いを職場から地域からつくり出してゆこう。

